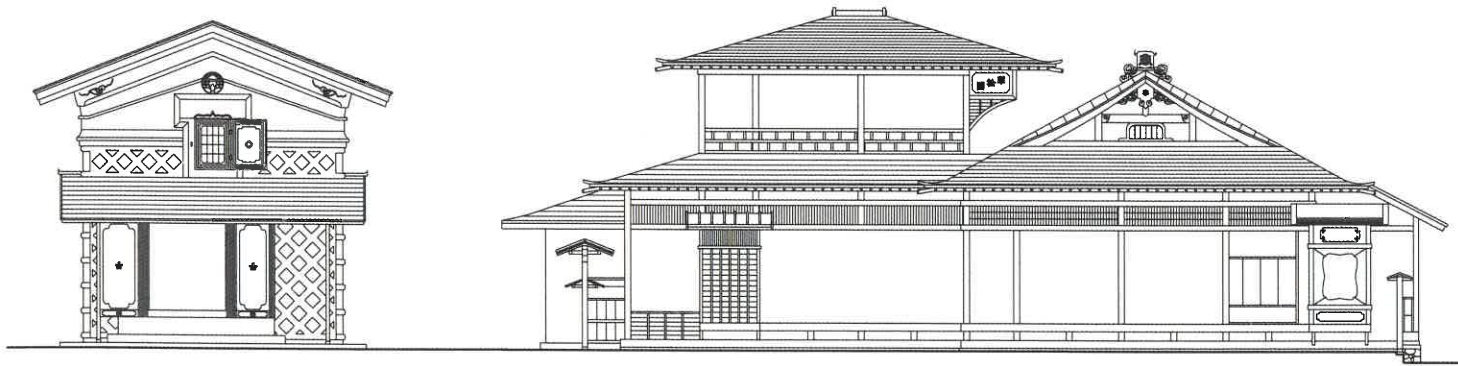
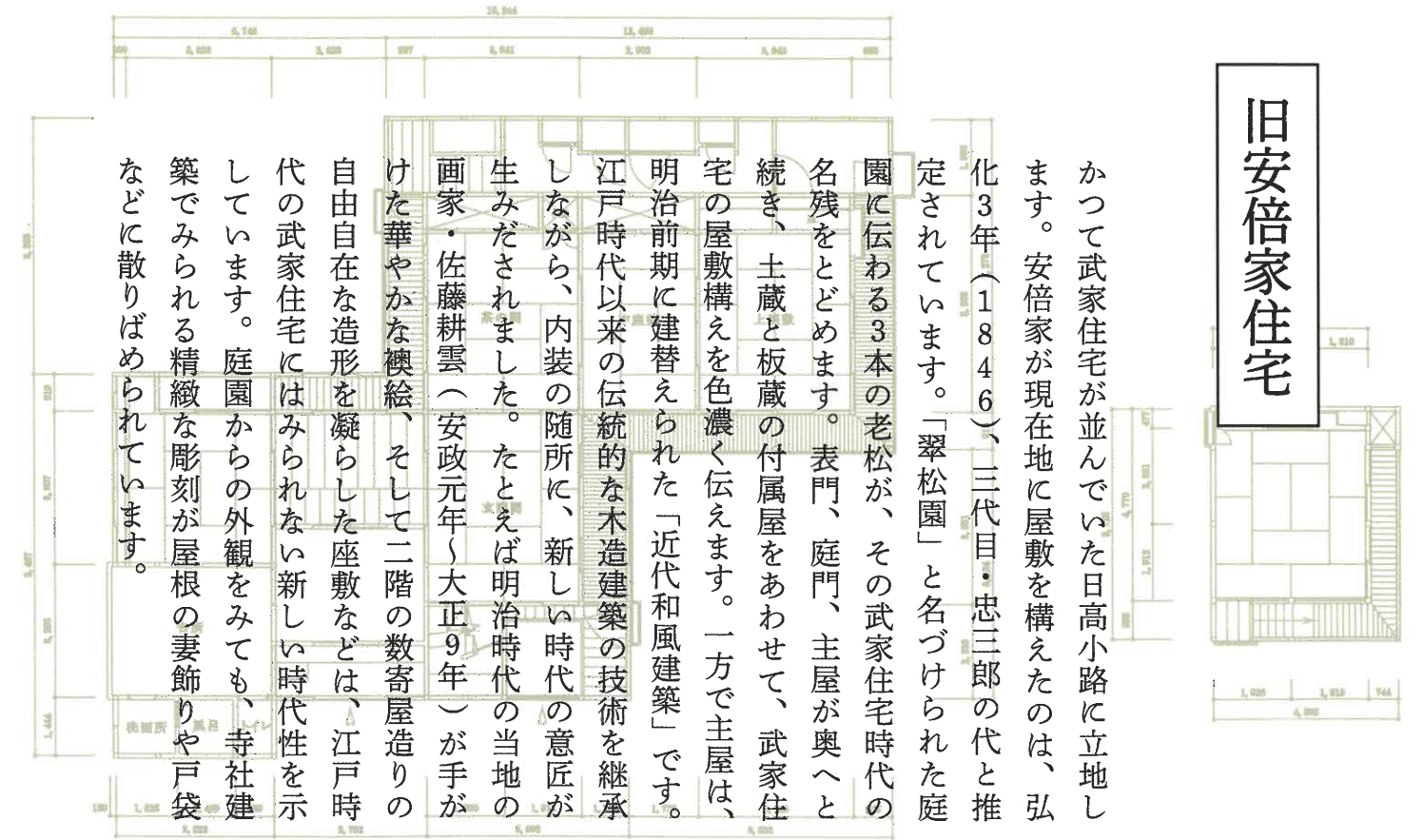
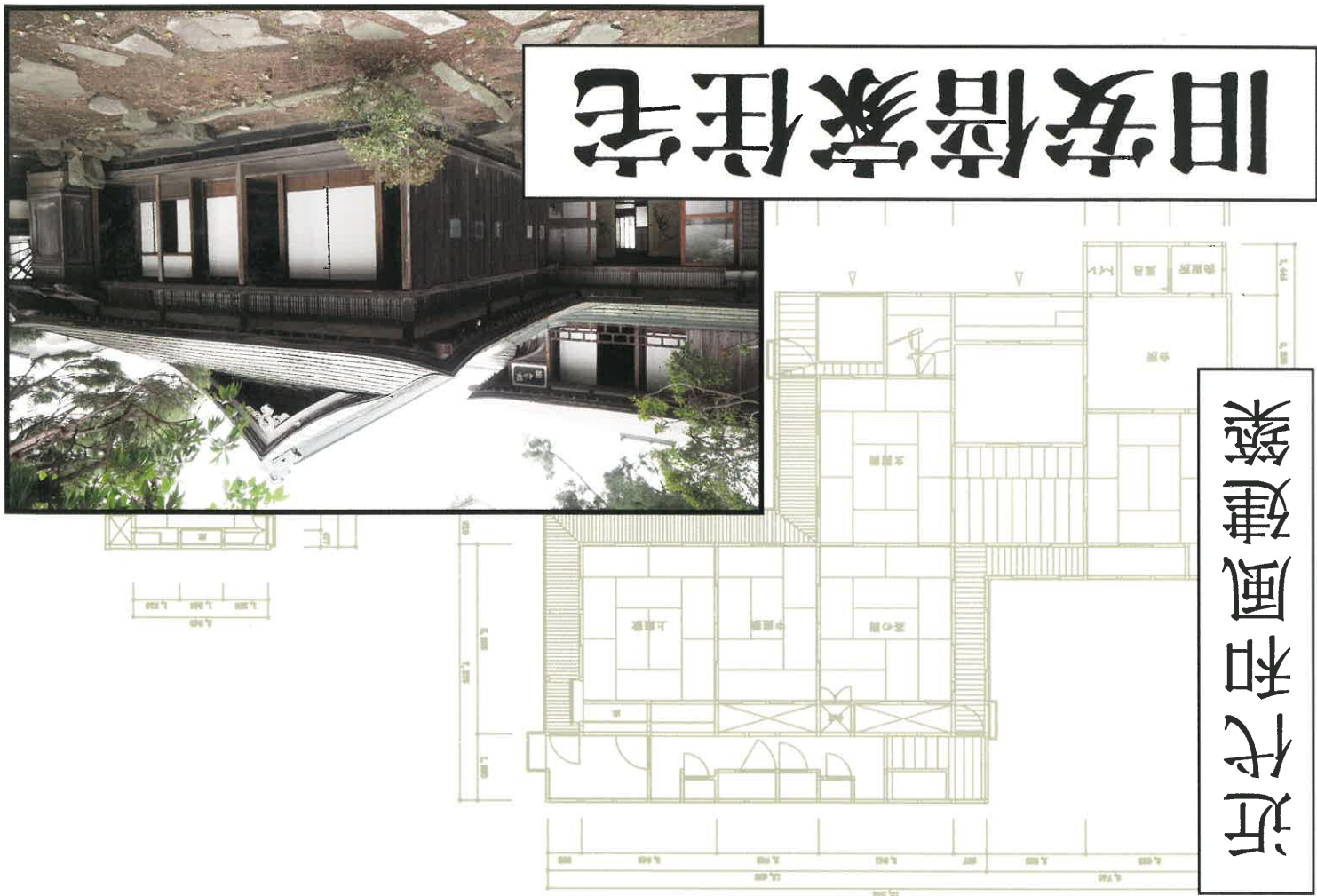
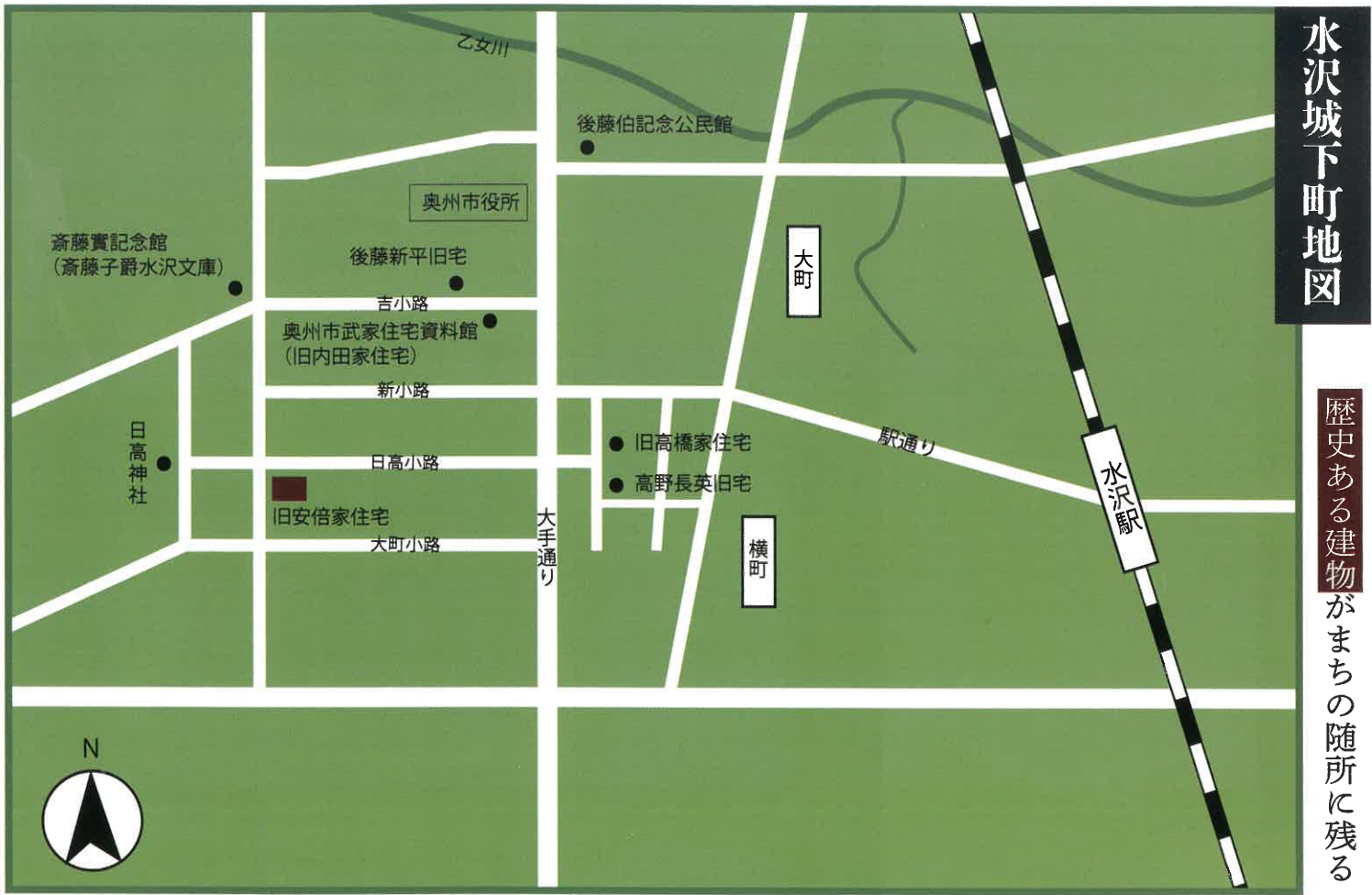
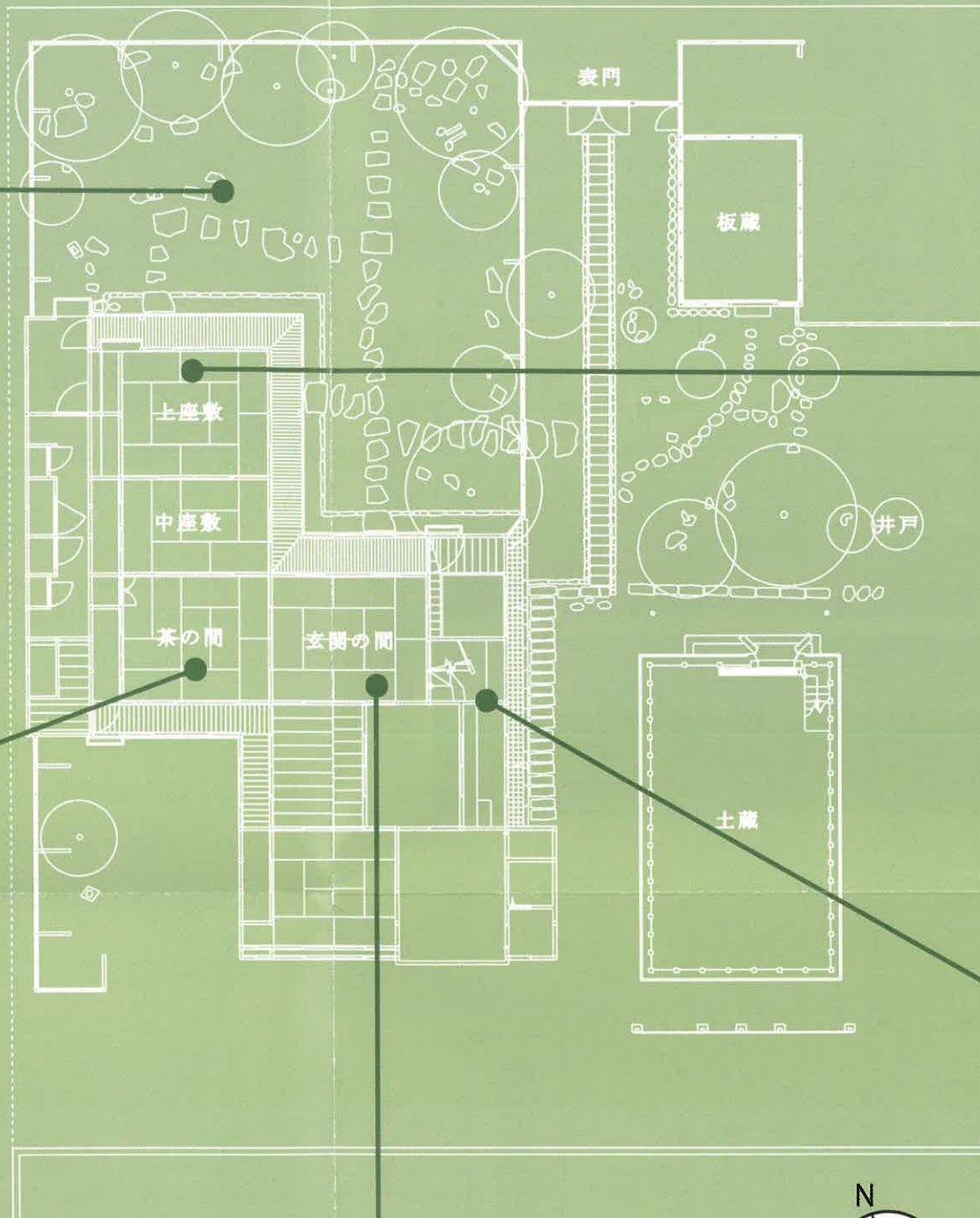




旧安倍家のみどころ

庭園と主屋の外観

二階建て部分は軽快な寄棟造り、平屋建ての座敷部分は寺社のように入母屋造りと屋根の形式を違えて、庭園から住宅を眺めたときに、対比的な外観を呈しています。仔細にみると戸袋にさえ彫刻が施されています。



格式高い座敷

庭園に面して、本住宅で最も格式高い部屋が「上座敷」です。天井の回縁が二重で、床の間は良質な杢目のケヤキの板、杉皮付き丸太の床柱、貝殻を混ぜた砂壁で構成されます。中座敷との境界を区切る欄間には、繊細な組子細工がみられます。



茶の間の壁には金物意匠を凝らした筆筒・神棚が埋め込まれています。この左手に平書院を設けており、杉皮付き丸太の中敷居とあわせて、床をもつ座敷風の茶の間としています。



茶の間の室内意匠

遊興空間の二階

一階の格式高い「上座敷」と異なり、二階の座敷は自由自在な室内意匠が特徴です。真ん中が高い舟底天井とし、砂壁には大粒の貝殻片を散らしします。曲木を自在に組み合わせた床の間もあわせて、数寄屋造りの遊び心あふれる座敷。江戸時代の伝統から離脱するような、近代和風建築らしい意匠です。



佐藤耕雲の襖絵

襖絵は、その落款から佐藤耕雲（安政元年～大正9年）が描いたものとわかります。佐藤耕雲は水沢伊達家家臣佐藤左衛門の息子で、この日高小路に住んでいました。この玄関の間の天井も特殊で、矢羽根という凝った意匠で板を張り合わせています。



武士の住まいにみられる式台玄関と異なり、本住宅では近代的な内玄関です。また玄関の土間にはモダンなタイルが敷かれています。このタイルは大正時代に当家が医院として改造された頃のものと推定されます。

モダンな玄関まわり

